

乳幼児のメディアとの接し方

つけっぱなしのテレビの前に赤ちゃんを一人残して、家事をするお母さん～心当たりのある方もいらっしゃることでしょ。まわりつくと邪魔だからという事情はわかりますが、一方で赤ちゃんの脳に大きなダメージを与えていることについても考えていただきたいと思ひます。テレビからは、実に様々な情報が一方的に提供されています。ニュース、ドラマ、教育番組・・・乳幼児には、それらを選択する力がありませんから、いいものも悪いものも、本人にその気がなくても、視覚を通して確実に脳に刻みつけられているわけです。「3歳まではテレビを見せない」と言われる方もあります。できるだけテレビを見ない環境をつくるのが望ましいのではないでしよか。

だ、テレビにしてもインターネットにしても良い情報を最も活用できるツールであることも事実です。「見せない」「遠ざける」のではなく「絞る」ことです。決まった時間の中で、何を見て何にふれるのかを考えさせる、メディアに対する接し方を学ぶ必要があるのです。いずれ大人になり、大量の“情報シャワー”を浴びることになるのですから、自分にとって好ましい情報は何なのか判断できるよう、子ども自身に学習させることが今は小学校段階から重要になっているのではないでしよか。

【江澤】子どもが自立できる力をもつためには必要なことかもしれませんね。

脳の活性化の後には、感動体験の共有を

【江澤】学校でのモジュール授業は、感受性を司る主要器官と言われる脳の前頭前野の活性化を促します。モジュール授業を通じて、子どもの可能性を引き出す基礎作りを行った後は、子どもにどのような機会を与えるべきなのでしょう。私は、「感動体験」を通じて、豊かな感受性を育てていくことを教育理念の基本にしていますが、感受性を含めた脳の土台作りをした後は、感動体験により、豊かな心をもった人間に育てて欲しいと願っているのです。

【陰山】感動体験は重要です。言い換えると知的好奇心を満足させるということにもなりますが、重きを置きすぎると落とし穴にはまり



ます。例えば、夕日を見るという行為は人を感動させます。感動するのは簡単ですが、それで終わるのではなく絵、詩、作文で表現し、自分の感じたものをいろいろな人と共有することが重要なのです。「体験」と「体験的学習」「学習体験」は違うのです。そうした中で、学校はモジュール授業に代表される知的体験を子どもの人間性の中に埋め込んでいく、高めていくという意味合いがあり、そうして培われた力を大いに発揮できるように、家庭、地域でも様々な体験に取り組んでいただきたいと願うのです。学校5日制の本来の意義はここにあるわけですが、学力が低下したから6日制に戻そうという発想は、私からみるととても残念な気がします。

「生活改善・学力向上プロジェクト」を平成19年度は中学校へ

【江澤】現在、19年度からの中学校への「生活改善・学力向上プロジェクト」の導入準備を行っています。今の教育制度を鑑みると、その矛盾点が中学校、特に公立校に集中して現れていると考えます。先般の調査でもわかるとおり、「勉強が必要」「楽しい」という項目に対して、小学校低学年ではともに高い割合で肯定されていたものが、学年があがるにつれ「楽しい」と答える割合が減り、中学校になると激減します。「勉強が分からない」中学生はやがて、「勉強をあきらめる」ようになり、自己否定感から巨大なストレスをためていきます。この根本的な解決策は、そういった悩める中学生に小学校からの総合的な学力を持たせ、「自分もやればできる」という自己